

令和4年度(第18回) 春の全国中学生ハンドボール選手権大会

男子 決勝

令和5年3月29日(水)

於: 氷見市ふれあいスポーツセンター

A 大体大浪商(大阪)	対	B 矢巾(岩手)
-------------	---	----------

28	13	前半	7	24
	15	後半	17	

第18回大会男子の決勝戦は、6年ぶりの春中優勝を狙う大体大浪商と初の頂点を狙う矢巾の対戦となった。

矢巾のスローオフで始まった試合は、開始1分30秒、大体大浪商がNo.15湯地のカットインシュートで先制。続けてNo.6羽山のサイドシュートが決まり大体大浪商は幸先のよいスタートをきった。対する矢巾はNo.5野中のロングシュートで取り返し、その後は両GKの好セーブもあり一進一退の攻防が展開された。大体大浪商はディフェンスが機能しはじめ、10分過ぎからの4連取で8対4とリードを広げたところで矢巾はたまらずタイムアウトを請求。タイムアウト後は矢巾No.4福士、No.7村井、大体大浪商NO.7川崎、No.4楠原らが得点を重ね、前半は13対7の6点差で終えた。

後半は開始からお互いに得点を重ね、点差がなかなか詰まらない中、矢巾は8分過ぎから7人攻撃を仕掛け、じりじりと点差を詰めていった。矢巾は体格を生かしたディフェンスが機能しはじめ、ゴールキーパーNo.1九條の好セーブもあり、20分にはNo.4福士のカットインシュートでついに1点差まで詰め寄った。しかし、大体大浪商はNo.4楠原の個人技から落ち着いてサイドのノーマークをつくり、No.6羽山が立て続けにサイドシュートを決めて点差を広げた。矢巾はディフェンスのラインを上げてボールの奪取を狙うが、大体大浪商は落ち着いて攻撃を組み立て点差を保ちながら試合の終盤を迎えた。最後はNo.4楠原、No.3亀井の得点で逃げ切り、第18回大会男子決勝戦は28対24で大体大浪商6年ぶり3度目の優勝で幕を閉じた。

記入者氏名 大嶋 賢